



©Yuki Asada

ビニール袋でかわいくリサイクル!

カタカタカタカタ…。コンクリートの建物に、機織り機の音が響きわたる。単調なリズムだが、どこか温かみがある音—。これを奏でているのは、ブルキナファソの女性たち。その織物の素材はなんと“ビニール袋”だ。

“高潔な人々の国”という意味を持つこの国では、実は年々、ごみ問題が深刻化している。ポイ捨ては日常茶飯事。道のあちこちにビニール袋が散らばっている。しかし彼らの“日常”を変えるのはそう簡単ではない。

そこで青年海外協力隊の西出直哉さんが思い付いたのが、これまで“ごみ”となっていたビニール袋のリサイク

ル。「ごみも使い方によっては現金収入につながる事が分かれれば、環境への意識も高まると思います」。地元につながる織物技術を生かし、タテ糸に国産の綿を、ヨコ糸に細かく裂いたビニール袋を使用してランチョンマットを作ることになった。また、別の協力隊員も職業訓練の一環として、ビニール袋の中に詰めたぬいぐるみやボールなどの“リサイクル雑貨”の制作に取り組む。隊員みんなで推進するエコ活動だ。

ビニール袋から生まれ変わったかわいい雑貨。環境に優しいこのアイテムが、日々の生活に彩りを与えてくれるはずだ。



現地の女性を指導する西出さん。ビニール袋を集めてきれいに洗い、細かく裂いて糸状にして織り込んでいく(撮影：飯塚明夫)

★ランチョンマットとボールを各2人、クマのぬいぐるみを1人にプレゼント!→詳細は38ページへ

